



追悼

忍 博次 先生を偲んで

本郷 秀和
福岡県立大学

私の忍博次先生との出会いは、岡山県高梁市にある吉備国際大学大学院の社会福祉学研究科博士後期課程への入学にはじまり、そのご縁もあり、大学院修了後にも継続して様々な交流をもたせて頂きました。

私が大学院生の頃には、忍先生は熱心にご指導くださいました。大学内での指導はもちろんのこと、ご多忙にもかかわらず、大学がある岡山県以外の地域、具体的には北海道や東京、九州等でも博士論文の研究指導を受けさせて頂きました。また、当時執筆途中の博士論文の指導の中では、様々な先行研究や調査に関する情報やアドバイスを頂くなど、不勉強な私にとっては大変有意義な時間になりました。そのおかげをもちまして、大学院社会福祉研究科では、初めての博士の学位を取得することができました。

岡山県でお会いした際は、吉備高原医療リハビリテーションセンター、北海道でお会いした際には北海道社会福祉協議会や障害がある方の就労施設、北海道開拓の村等に忍先生の運転でご案内してくださり、大変勉強になったことを懐かしく思います。また、熊本での施設見学、天草や阿蘇にご一緒させて頂いたことなども、未だ私にとっては記憶に新しいところです。忍先生は特にお酒が好きで、岡山でお会いした時には、倉敷市の居酒屋に度々連れて行って頂き、「そばと日本酒はよく合う」と言われていました。また、その際には幼少期の頃や奥様のことをよくお話されていきました。特に「母が着物売って、生活費の足しにしていた」という言葉は今でも印象深く残っており、当時のご苦勞が伝わってきました。そして、とても奥さん想いの先生であったと思います。

忍先生は、地域福祉・障害者福祉がご専門の領域でしたが、特に障害者リハビリテーション、ハンセン病や精神障害者に関する差別と偏見に関するご研究に注力されていたと思います。北海道では、研究誌「北海道ノーマライゼーション研究」などにもご貢献されていたご様子でしたが、北海道の地域福祉のみではなく、社会福祉学の研究者として、全国的にも様々なご活躍をされ、幅広い人脈を築いておられました。忍先生の代表的な著書として『自立・人間復権の福祉を求めて』筒井書房（1997）、『社会福祉を考える ―変わりゆく福祉の思想を求めて―』響文社（2000）、『続 共生社会を求めて―福祉を歩いて60年―』かりん舎（2020）などがありますが、私にとって特に印象に残った書籍として『偏見の断層―福祉を考える友へ―』筒井書房（1987）があります。この著書では、偏見と社会福祉、障害者福祉とノーマライゼーションなどに触れられており、社会的にみた障害者に向けられる態度について考えさせられました。

最後になりますが、厳しく、そして温かく、ご指導を頂いた忍博次先生に対して、この場をおかりして感謝するとともに、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。